NIE実践報告

1．タイトル：**タイムリーな話題あふれる学校づくり―新聞記事を活用して―**

2．学校名

**今治市立西中学校**

3．実践者名（代表者名）

**白石裕太**

4．学年

**全学年**

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

**特別活動　５６０人　総合的な学習の時間・社会科・国語科**

6．単元（本時の学習課題）名

**生徒集会「新聞記事を根拠にディベートをしよう」　総合的な学習の時間「文化の里めぐり」**

7．目標(狙い)

**特別活動・総合的な学習の時間においては新聞を利用して知識を増やし主体的に考えより良い社会を創っていこうとする態度を育て、教科においては学習意欲の向上を図る教材として新聞を活用する。**

8．評価の視点

**本事業開始時（平成２２年１０月）と一年後（平成２３年１０月）に全校生徒を対象としたアンケート調査を実施し、比較により評価・検証を行う。**

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数

（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

**ディベートにおいては集会を２時間設定したが、準備に関する時間は特には設けず放課後や長期休みを利用した。総合的な学習においては３５時間中１３時間を壁新聞の作成から発表までにあてた。**

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

**校内掲示に生徒が選んだ新聞記事を活用したり、NIEコーナーを設けて自由に新聞（６社）を閲覧できるように環境を整えた。「原子力発電所は必要か？必要でないか？」をテーマとしたディベートに向けて生徒会役員が中心となって、原子力発電に関する賛成記事と反対記事をスクラップ帳にまとめ、NIEコーナーに展示した。（常時）**

**壁新聞を作成するにあたり、新聞記者をゲストティーチャーとして招いて、体育館で１年生を対象に取材のポイントや作成にあたってのアドバイスの講演を実施した。（２）**

**社会科では、生徒に新聞ノートを継続して作成させることで、資料活用能力の向上や自分の考えを書き添えることで表現力の向上を図った。（週末課題）国語科では「自分新聞づくり」や「和語・漢語・外来語」の学習において新聞を教材として活用した。（６）美術科においては、新聞の見出しを「レタリング」に教材として活用した。（４）**

11．児童・生徒の反応、感想・意見

**同じ出来事を扱う記事でも、新聞社によって表現内容が違うことがわかった。**
**子どもが読んでもわかるように説明がある記事があるので新聞を読むようになった。**

12．成果と課題

**新聞を読む生徒が増え、社会の動きに興味、関心をもつ生徒が増えた。**
**記事を授業で活用することで、学習することに意義をもつようになり、主体的に授業に取り組む生徒が増えた。**
**第１８回新聞配達に関する「エッセーコンテスト」に応募するなど、新聞記事を利用する受動型から投稿する発信型に変化する場面もあった。**